

平成24年度大阪市博物館協会外部評価【シート1・2】委員総括コメントへの措置状況（大阪歴史博物館）

		指摘事項	措置状況
【シート1】 運営状況 (総括)		<p>①展覧会、普及事業等の参加者や自己収入の増加について、今後も継続を。</p> <p>②館の使命について、館内外の人が十分理解できるより具体的なものへ改訂を。</p> <p>③リピーター獲得には、市民の要望に敏感になり、市民交流の場としての機能を一層高めていくことを期待。組織の経験と知識、技術、人脈等を次世代の職員にどう伝えていくのか、中長期的視点に立った検討を。</p>	<p>①自主企画の特別展(25年度・変わり兜展)を他館へ巡回し、企画料収入を得るなど収入確保を実現した。今後も自主企画展の他館巡回を検討していく予定である。</p> <p>②これまでの事業の検証をふまえ、館内外の人びとによりわかりやすい使命・目的となるよう再検討を進めて行く。</p> <p>③学芸員の今後の世代交代を見越し、従来、博物館が培ってきたノウハウ等を確実に伝えていけるよう、今後の継承課題とする。</p>
【シート2】各館・所の特徴	「館の強み」の認識	<p>①目玉作品に依存しない、多様なコレクションを駆使した企画力による展示の充実を。</p> <p>②ボランティア活動を展示解説や外国人への支援等へ広げるなど、博物館の交流機能、学習機能の更なる強化を。</p> <p>③大阪の基幹的な博物館として、大阪の歴史、伝統についての意志的な語りを。</p>	<p>①コレクションを活用した企画として年間6本程度の特集展示を開催してきている。今後、自主企画の特別展の企画につながるよう検討中。</p> <p>②博物館2階の「なにわ歴史塾」において、展示の関連図書コーナーを設けているほか、季節ごとにテーマに合わせた関連図書の展示を企画するなど、図書をとおした学習支援の独自企画を展開している。</p> <p>③大坂の陣400年(27年度)の特別展に合わせた図書の刊行を準備している。</p>
	「館の弱み」の認識	<p>①館の使命を再確認し、利用者の視点に立ったマネージメント体制の強化を。</p> <p>②各種機器や施設の老朽化の問題については、施設設置者(大阪市)とねばり強く、説得力のある予算交渉を。各種機器については、館のスタッフ・ボランティアと利用者とのコミュニケーション強化も検討しつつ、使い勝手の良さ、更新費用の確保等を十分踏まえ適切な時期に更新を。</p>	<p>①利用者の視点に立ったマネージメントが実施できるような体制づくりに取り組んでいく。</p> <p>②老朽化した機器類の更新については、今後の館や事業のあり方を想定しながら、見直しをもった更新内容の検討を進めていく。</p>
	「環境の変化」の認識	<p>①市民交流事業に力を入れ、大阪の歴史・文化に対する関心を高め多様な人々を包摂する、大都市における市民の居場所としての機能の発揮を。</p>	<p>①25年度において市民団体「織田作之助生誕100周年記念事業推進委員会」と連携し、特別企画展「生誕100周年記念 織田作之助と大大阪」を開催した。</p>
	指定管理期間の変化	<p>①特別(企画)展「水都大阪と淀川」(22年度)「日欧のサムライたち」「大阪を襲った地震と津波」(24年度)等の時宜を得た連携展示については、更なる展開に期待。特別展で集積された成果については、常設展示等への活用も。</p>	<p>①25年度夏期に特集展示「近現代大阪の地震」を開催した。25年度特別企画展「織田作之助と大大阪」の開催。また難波宮発掘60周年に合わせて26年度特別展「大阪遺産 難波宮」を開催し、会期終了後にはその成果を常設展示10階へ反映させるべく計画している。27年度には大坂の陣400年、道頓堀400年に合わせた展覧会を準備している。</p>
	今後の課題	<p>①多額の予算を必要とする事業については、現状の問題点を十分整理し、施設設置者(大阪市)と方向性を練ってほしい。</p> <p>②子どもや高齢者、団体客、アジア諸国からの来訪者等、多様な人々への受入体制づくりを。</p> <p>③考古系ばかりでなく歴史や民俗関係も展示の充実を。</p> <p>④大阪城天守閣と協働し、大阪の歴史と文化に関する情報を戦略的に発信していくことを期待。</p>	<p>①現在かかえる課題を整理しながら、設置者への説明に努力をしていきたい。</p> <p>②25年度下半期に10階常設展を対象にキャプションの多言語化の試みとして韓国語と中国語の表記を追加し、今後の外国語対応のあり方について検討した。HP上に特別展の英語情報を充実したり、年間展示予定表の英語版の刊行も行った。</p> <p>③大阪城天守閣との協働によって、より魅力ある大阪の歴史・文化の情報発信が可能となると考えられるため、さまざまな具体事例を積み重ねるなかで、今後の可能性を探っていく。</p>

平成24年度 大阪市博物館協会外部評価【シート3】委員総括コメントへの措置状況

大阪歴史博物館

事業区分	指摘事項	措置状況
1 資料の収集、保存、活用	①収集に力を入れるべきものを明確にしなが資料収集に努め、大阪の歴史・文化を発掘してほしい。 ②館蔵資料の概要、主要館蔵品情報についてHP等で公開を。資料目録等のデータベース化、公開等の状況を点検項目に入れ、計画的改善を。	①資料収集方針を明文化しており、それに則して、大阪の歴史・文化に関する資料を毎年数百～数千点規模で収集している。 ②25年度下半期からHPIに「館蔵品ギャラリー」というコーナーを設け、各部門の代表的なコレクションの概要紹介と主要作品の紹介をスタートさせた。
2 調査・研究	①研究成果の公開状況(展示や調査研究報告書の作成・公開状況等)を整理しHPへの掲載を。 ②東京都江戸東京博物館との共同研究の継続を期待。市、府、関西地区の博物館、大学、研究所等との共同研究の一層の進展を期待。 ③市民に身近な“顔の見える美術館”にするため、HPで学芸員情報(専門分野、研究業績、研究成果の公開状況)の積極的公表を。	①25年度発行分から研究紀要のHPからのダウンロードを開始している。 ②江戸東京博物館との共同研究・研究交流は継続中。大阪市立大学との連携による研究プロジェクト、および市民向け講座も実施した。 ③学芸員情報を載せた年報(23年度以降)をHPで公開している。
3 展示(常設展示、特別展)、来館者サービス	①リピーターを増やすため、特集展示についてさらに展示テーマのコンセプトとターゲットの明確化、外部連携、展示内容の充実を。広報も、コピー、デザイン等の更なる工夫を。 ②子ども向け事業について、館のHPに子ども向けのサイトを独立させるなど、子ども向けの広報の充実を。 ③リピーター確保のため、展示内容、方法について全般的に点検・見直しを。 ④常設展示について、展示の見どころのアピールを。期間限定の公開資料であることをわかりやすく。“いつ来ても、どこかに変化があつて、また来てみたい”と思ってもらえる、オリジナリティある展示空間の演出に一層努力を。 ⑤特集展示を目的にする観客が増えるよう、一層展示の充実を。	①リピーターの増加をめざし、さらなる展示内容の充実や、広報の工夫を検討していきたい。 ②HPでの子ども向けサイトなど、子ども向け広報の充実は今後の課題として検討していきたい。 ③常設展示の展示替情報をHPのトップページからすぐに検索できるよう措置。 ④25年度の常設展示の更新は37回実施し、HPでも広報しているが、展示コーナーでの認知度を高める工夫については今後の課題としたい。 ⑤25年度の特集展示では、夏に関東大震災90周年の地震展、秋には新発見の道頓堀開闢関係史料展、春には御所人形など、話題性・季節感を意識し展示の充実をはかった。
4 教育普及、学習支援、友の会、ボランティア	①講演やシンポジウムの開催情報、過去の記録について整理し、HPに掲載を。現行の「展示・イベント」は、お知らせ機能に重きが置かれデータベース機能が弱いいため、機能を分離しそれぞれの機能の充実を。 ②今後も学術情報の発信を。 ③身近な歴史を再発見する事業、地域の文化資源を掘り起こす事業について、博物館の展示や事業の充実につなぐように留意し定期的な開催を期待。 ④週末のボランティア不足解消のため、週末を中心に活動するボランティアを募集する等の措置や、活動範囲を展示解説にも拡げていくことを要望。	①23年度分から年報のダウンロードを開始し、過去の記録を参照できるようにした。 ②研究紀要、および共同研究報告書のHPへの掲載を進めている(現在、調整中の内容を含む)。 ③町めぐりや遺跡を歩く見学会を継続して実施している。また、淀川や難波宮など、地域をテーマとした展覧会に関連した事業も企画・実施している。 ④ボランティアについては、新規募集のタイミングを念頭に、改善案を検討する。
5 学校等との利用促進、学校教育支援	①事業充実のため、大阪文化財研究所の協力やボランティアによる支援を得ることが望まれる。 ②館の社会貢献について、HPで積極的な紹介を。 ③キャンパスメンバーズ制度の普及のため、メンバー校を優先した大学の実習受け入れの検討を。 ④小規模大学等がキャンパスメンバーズ制度に入学しやすい工夫を。参加増には協会所属の博物館のうち特定の館だけを利用する制度も必要。協会だけではなく、各館のHPでも制度の周知を。	①学校団体からの要望により、定時以外に行う遺跡案内について、ボランティアの支援を得て実施している。 ②現時点では、博物館の使命と目標をHPに掲げているが、さらなる情報発信については検討中。 ③キャンパスメンバーズ導入校である大阪大学、大阪市立大学については、他大学に比して多くの実習生を受け入れている。 ④現在検討中
6 広報・宣伝、情報公開と発信	①「えんそくのしおり」について、HPからもダウンロードできるものにし、今後も発行を。館の広報物についてはデザイン・レイアウト等の改善努力を。 ②現代アートとのコラボ等成果があがったものは継続実施を期待。・HPの外国人向け情報について、常設展示情報等、不十分なものは速やかな改善を期待。	①「えんそくのしおり」継続発行については予算面から再考中である。 ②外国人向け情報提供は英語による特別展情報の提供をHP上で25年度より開始している。特集展示を含めた情報は英語版の年間展示予定表も25年度より作成済。
7 地域、市民、関連機関との連携・交流	①大阪市立大学との連携事業の継続・発展を期待。 ②今後も天守閣との連携を。	①連携事業の講座・講演に積極的に学芸員を派遣(25年度:3名)、連携講座の出版にも参加。 ②天守閣とのセット券の発売数が、25年度は24年度の109%に達した。27年に計画している大坂夏の陣展示ではさらなる連携を検討する。

<b>8 施設の整備、維持管理、リスクマネジメント</b>	<p>①市民に日常の資料保存のための努力を積極的に伝えてほしい。</p> <p>②リスクマネジメントの取組みが形骸化しないよう定期的に点検・見直しを。</p>	<p>①25年度には修復品を特集した展示や、修復の終わった御所人形やフィルムの映像展示など、常設展において積極的に紹介した。</p> <p>②年2回の総合防災訓練の機会を活用し、リスクマネジメントの形骸化を防ぐため、点検・見直しに取り組んでいかなければならないと考えている。</p>
<b>9 運営・マネジメント</b>	<p>①学芸系と事務系職員、館の職員と外部委託業者・館の支援者の十分な連携のため、情報共有と研修を。</p> <p>②将来計画(今後の調査研究や展示の方向性、リニューアルの在り方、博物館の位置づけ等)について大阪市博物館協会と施設設置者(大阪市)で協議を。若い世代に向け、戦後、とりわけ高度経済成長以降の展示を今後どうしていくのか、グローバル化が進展する中、変貌著しい大阪の姿をどう展示するかが大きな課題。今後の展示の在り方と交流機能の強化について計画的な検討を期待。</p> <p>③協会施設で連携し経費の節減方策(共同購入、共同契約等々)を。節減だけでなく博物館の活性化のため節減予算の効果的な活用を。</p> <p>④学習情報センターについて、機能をアピールするため独立したサイトにする、調査研究のサイトにも掲載する等の工夫を。</p>	<p>①館内事務作業のスムーズ化をめざし総務・学芸で検討中である。</p> <p>②常設展示情報システムについて今後の方向性の検討を開始した。</p> <p>③協会経費による館蔵品の修理をH25年度に実施した。</p> <p>④学習情報センターでは「なにわ歴史塾ブログ」を立ち上げ、司書が直接情報提供をおこなっている。ブログへはHPのトップページから入ることができる。</p>
<b>10 a</b> ※各館の特性ができるように、この項目を活用する。	<p>①上町台地に係る事業について、利用実態や効果を十分フォローし、コンテンツの適切なバージョンアップを。</p>	<p>①人気メニューについては継続しつつ、今後の新展開を検討中。</p>